

知事記者会見の概要

日 時：令和2年1月6日(月) 10:30～10:54

場 所：記者会見室

出席者：知事、総務部長、秘書課長、広報広聴推進課長

出席記者：12名、テレビカメラ5台

1 記者会見の概要

広報広聴推進課長開会の後、知事から1件の発表があった。

その後、フリー質問があり、知事が答えて閉会した。

2 質疑応答の項目

発表事項

- (1) 令和2年 年頭のあいさつ

フリー質問

- (1) 発表事項に関連して

<幹事社：朝日・荘内・NHK>

知事

県民の皆さん、県内においでの方の皆さん、記者の皆さん、新年明けましておめでとうございます。皆さんも清々しい気持ちで新春を迎えられたことと思います。

令和の時代になって初めて迎えたお正月であります。元旦の朝に窓を開けましたらば、うっすらと雪化粧した本当に美しい世界が広がりました。昼には太陽も顔を出して、青空が広がりました。本当に穏やかな元旦でありました。私はこの一年が災害もなく穏やかな一年であってほしいと、心から願ったところであります。

本日は、新年にふさわしいお花ということで、ここですけども、啓翁桜を飾っております。

丁度この時期に、雪国山形から全国に出荷をしております、日本一の生産量を誇っております。現在、県内をはじめ、歌舞伎座や東京ステーションホテルなど、首都圏の文化・宿泊施設などにも展示をしております、一足早い春を楽しんでいただいているところです。

さて、今年は庚子（かのえね）、ねずみ年であります。ねずみは繁殖力が高いので「子孫繁栄」とされ、株式相場でも「子年は繁栄」で上げ相場になると言われています。本県も景気が良くなることを期待しております。

また、「子（ね）、ねずみ」は、十二支の中で最初の干支でありますので、新しい物事のサイクルが始まる年と言われております。県民の皆さんも新しいことを始める良いチャンスではないかと思えます。

県政に目を転じますと、まさに、「令和」の新たな時代における県づくりの指針となる「第4次山形県総合発展計画」、仮称ですが、そのスタートの年となります。

若者世代をはじめ、県民の皆さんや市町村の皆さんの考えをお聞きしながら、年度内の策定に向けて検討を進めているところですが、県民誰もが真の豊かさや生きがいを実感できる、新しいやまがたを創生していくこと、そのためにも人口減少を乗り越え、持続的に発展できる社会を実現していくことなどを、これからの県づくりの基本的な考え方に掲げ、しっかりとした将来ビジョンを描きながら、県民の皆さん、市町村とともに県づくりを進めてまいりたいと考えております。

本県では、これまで、「山形県エネルギー戦略」に基づく再生可能エネルギーの導入拡大や、女性活躍促進を図るウーマノミクス、また森林ノミクスなど、持続可能な開発目標（SDGs）に通じる先駆的な施策を既に展開してきております。今後も、地球規模の持続可能な社会の実現に貢献していくといった視点を持って、令和という新しい時代の県づくりを進めてまいりたいと思えます。

そして、農業や工業、福祉などあらゆる分野で付加価値や生産性を高めるイノベーションを促進し、本県の価値を高め続け、国内外に広く発信する取組みをこれまで以上に強く推し進め、「やまがた創生」の取組みをステップアップしてまいります。

私の基本姿勢であります「心の通う温かい県政」のもと、県民のための県政を推し進め、県民が本県で暮らす幸せを感じ、本県を訪れる人も幸せを感じられるような県づくりを進めてまいりたいと考えております。

また、一方でですね、昨年、一昨年と、本県も地震や大雨、台風による大きな災害が発生しました。今年は、そのような災害が起こらないことを切に願っておりますが、万が一発生するという場合も考えて、しっかりと備えておくことが肝心であります。

そのために、今年度から、「防災くらし安心部」を設置したところでありますけれども、これまでの災害で明らかになった課題や教訓を踏まえながら、防災、減災の強化に取り組み、災害に強い県づくりを進めてまいります。

それでは、これまでの成果を踏まえながら、今年さらに飛躍を目指したい事案をいくつかお話したいと思います。

まず、新たな芽生えとして、昨年12月にプレオープンした山形県総合文化芸術館についてであります。いよいよ3月に、新しい山形県の文化芸術活動の拠点となる山形県総合文化芸術館、愛称は「やまぎん県民ホール」です、が開館いたします。組子や米沢織、オリエンタルカーペット社製の緞帳や絨毯、天童木工の技術を駆使した椅子など本県のものづくり技術や県産材がふんだんに用いられ、大ホールは東北地方屈指の2001席を誇ります。加えて、県内35市町村の産品を扱うショップや、県産食材を使用するカフェ（補足：館内のカフェ）もオープンする予定です。なお、カフェ（補足：別棟のレストラン）は9月頃（完成予定）になると聞いているところです。オープンですね。まさに、建物全体で本県の魅力を発信する、交流の拠点となる複合施設であります。

私は、この施設が大いに活用されて、県民の皆さんお一人おひとりの元気や活力の源になることを願ってやみません。県内はもちろん、県外、あるいは国外の方々にもおいでいただいて、賑わいや交流が深まり、地域経済活性化にも寄与し、末永く愛される施設となるよう、県民の皆さんとともに育んでまいりたいと考えております。

そして夏には、待ちに待った東京2020オリンピック・パラリンピックが開催されます。本県出身、本県ゆかりの選手の活躍が大いに期待されるところです。また、県内では、多くの市町村がホストタウン事業などを通して国際交流に取り組んでおりますし、オリンピック聖火リレーが6月7日、8日に予定されております。こうした取り組みを通して、本県でも東京オリンピック・パラリンピックを、県を挙げて大いに盛り上げてまいりたいと考えております。

この大会を、山形県の美しい自然や歴史・文化、美食・美酒など、本県の魅力を世界の人々に発信する大きなチャンスと捉え、しっかりとPRしていきたいと思っております。

かつてイザベラ・バード女史が「東洋のアルカディア」と呼び、ライシャワー元駐日大使が「山の向こうのもう一つの日本、自然と人間が調和して生きる、将来の理想的な姿がここにある」と絶賛した山形県でありますので、世界の多くの人々にとっても魅力的なところだと私は自負をしております。

これを機会に、より多くの方々に本県を訪れていただき、本県の素晴らしさを知っていただいて、交流人口の拡大につなげていきたいと考えております。

特に、この大会は、インバウンド誘客拡大に絶好の機会になると思っております。これま

でも様々な取組みを進め、昨年度は、台湾からの国際定期チャーター便が春夏期と秋冬期で運行され、過去最高の便数となりました。外航クルーズ船の寄港も着実に増加をしております。官民挙げてのおもてなし効果により、寄港地として高い評価をいただいております。こうした取組みの中で得たノウハウを十分活用し、本年の外国人旅行者受入れ目標 30 万人を掲げておりますので、その達成に向けて、プロモーション強化にしっかりと取り組んでまいります。

ここで私は、中長期的な視点で、何が本県の強みで、将来にわたって魅力あるものになるのか、じっくりと考えてみました。

みなさんご案内のように、山形県にはなんでもあります。

四季折々に美しい姿を見せてくれる豊かな自然、山や川や滝、田園風景といったことです。それから全部の市町村に湧いている温泉。つや姫や雪若丸といった美味しいお米、米沢牛や尾花沢牛、総称山形牛ですけれども、それから、さくらんぼやラ・フランスなど多くの種類の生産されている果物、そして「庄内北前ガニ」をはじめとするおいしい水産物、また日本一と称されるお酒やワイン。花好きな方には、古典桜や千本桜、霞城公園の桜や、バラ園、ダリア園、シャクヤク園など、本当に楽しんでいただけるものがたくさんあります。なによりも、世話好きで親切、勤勉な県民性があります。

さらに、先人が伝えてくれたモノづくり技術や伝統文化、民族芸能なども豊富でありますし、今日私がインナーとして着ているこの黒いTシャツなのですけれども、普通のTシャツに見えるかもしれませんが、これはスパイバー社の糸を使って作られたTシャツであります。そういった世界最先端の技術もございます。

本当に多彩な魅力にあふれている山形県なのであります。県民の皆さんは、もともと自分の県の、ふるさとの魅力を認識してほしいなど常々思っているのですけれども、今日は、それを強調したいわけではございません。

本県を他の県と比べてみました。すると、やっぱり、山形県の強みは「精神文化」であろうというところに行き着いたのでございます。なんと言いましても、東日本随一の精神文化を擁する出羽三山があります。これは世界遺産級だと思っています。それから、日本遺産となった山寺がありますし、たくさんの重要文化財を擁している本山慈恩寺がございます。即身仏は、全国十数体のうちの 8 体が山形県にあるのです。草木塔も本県固有の文化だと言われております、ほとんどが県内にあると言われております。そして、出羽百観音というのがあるのですけれども、三十三観音が 3 か所ある県は他には見当たりません。四国まで行かなくとも、山形県で巡礼をすることができるのです。

神社仏閣を宗教という視点で捉えてしまいますと、政教分離という言葉に縛られてしまって、役所は腰が引けてしまいがちであります。しかしながら、フランスは観光という視点で、そういう切り口で関わっていると聞いておりました。それで、本県も「山形の宝」事業の一環として、文化財の修理や保存に関わり始めているのであります。日本人にとって背骨ともいえる精神文化を、先人が伝えてくれた本県の精神文化を、私たちは誇りを持

って、次の世代にしっかりと守り伝えていくべきだと考えています。そして、その精神文化は県内外、国内外の沢山の方々を魅了することは間違いありません。伊勢神宮はいつも国内外の観光客であふれております。また、フランスの孤高の修道院として知られる「モン・サン・ミッシェル」ですが、年間に 300 万人もの人々が訪れているそうです。その歴史は 1300 年ということでありますけれども、出羽三山はそれ以上の 1400 年の歴史であります。

昨年は御代替わりの年で、即位礼正殿の儀が行われ、世界中から注目を集めました。日本の歴史と伝統が世界に周知されたと思っています。やはり、日本固有の伝統芸能や文化に外国人は魅了されますし、日本人も心の安らぎ、あるいは癒しといったものを求めたりいたしますので、将来を見据えて、山形県の強みである精神文化、また、それから出羽百観音といったものを、しっかりと支えていきたいものだというふうに考えているところであります。

次は、高速道路ネットワーク、横軸道路などについて申し上げます。私は、県勢発展に向けては、交通基盤の整備が欠かせないと考え、その整備促進に力を入れてまいりました。その結果、高速道路の整備率は、10 年前の 50 パーセントから 76 パーセントまで着実に高まりました。特に縦軸であります「東北中央自動車道」は、東根市から首都圏までつながりました。つまり、全国の高速道路ネットワークにつながりましたので、観光やビジネスなどで交流が増えました。より多くのお客様を呼び込んでいかなければと考えているところです。今後とも、着実に整備が進む横軸道路を含め、本県の高速道路ネットワークの早期完成に向けて、県民の皆さんや市町村、隣県と連携して取り組んでまいりたいと思っております。

これまで申し上げたような成果を積み上げていく取組みは大変重要であります、一方で、本県の将来に向けて「種」を蒔いていく、そういう取組みも非常に重要だと考えています。

フル規格新幹線につきましては、これまでも地元関係者が一致団結して要望活動を行うとともに、沿線の関係県などとの連携した要望活動や調査検討を進めてきたところであります。引き続き、オール山形の推進組織である「山形県奥羽・羽越新幹線整備実現同盟」を核として、地域の推進組織や沿線の関係県とも密接に、緊密に連携しながら、フル規格新幹線の早期実現と、これにつながる福島～米沢間トンネル整備に向けた重層的かつ波状的な取組みを展開してまいりたいと考えております。

そして、国際定期便を実現するには、県内空港の滑走路延長も欠かせないところであります。実現目指して各種シミュレーションをおこなっているところでございます。

いずれも一朝一夕に成し遂げられるものではありませんが、本県の将来の発展を見据え、長期的視点を持って、令和の新時代もしっかりと前に進めるべく取り組んでまいりたいと思っております。

尚、農林業の専門職大学や、県立新庄病院も、目の前の課題として、しっかりと実現するべく取り組んでまいりたいと考えております。

今日は二十四節気の小寒、寒の入りに当たっています。

県内はこれから、本格的な雪の季節を迎えるわけでございます。県民の皆さんの安全・安心な生活を守るため、適切な道路除雪に努めますとともに、雪害事故の防止に向けて、安全な雪下ろしや除排雪作業についての広報活動を行ってまいります。

また、雪国に住む私たち大人にとっては苦しみの種になりやすい雪でございますけれども、その雪を逆手にとって、観光など交流人口の拡大や地域経済活性化につなげていく視点も大切だと思っています。

実際、現在も、沢山の観光客の皆様が本県の雪を見に訪れてくださっています。観光客が宿泊したり、お土産を買ったりしますと、本県の米や肉、魚、野菜など食べ物が消費されますし、バスやタクシーなどの交通機関も利用され、地域経済が潤うのであります。引き続き、「やまがた雪フェスティバル」などの、雪を活かした冬の観光振興・地域経済活性化に力を入れてまいります。

最後に、今、本県、我が国を取り巻く世界的な動向から目が離せない状況です。米・中間の通商問題や、景気の減速が続く中国経済、英国の EU 離脱、間もなくですね、日韓関係など、海外の政治経済の動向が本県産業にどのような影響を及ぼしていくのか、注意深く見守っていく必要があります。

加えて、昨年 10 月の消費税率引上げ後の景気動向なども踏まえながら、本県産業の持続的な発展に向けて、各種施策を展開していく必要があります。広い視野を持ちながら、足元をしっかりと見つめ、臨機応変に対応してまいります。

以上、年頭に当たっての所感を申し上げます。

令和 2 年、2020 年が、山形県にとりまして飛躍の年となり、また、すべての県民の皆さんにとりまして、健やかで、希望と幸せを実感できる、素晴らしい 1 年となることを切に願っております。まだまだ寒い日が続きますので、県民の皆さん、県内においでの方の皆さん、記者の皆さん、くれぐれもご自愛していただきたいと思っております。

それでは皆さん、本年もどうぞよろしくお願いたします。

☆フリー質問

記者

あけましておめでとうございます。今年もよろしくお願いたします。

所感のなかで、本県の強みとして精神文化を挙げられて、特に出羽百観音を取り上げられたと思うのですが、支えていきたいというのは、今プロジェクトも展開されていると思うのですが、どんなふうに支えていくのかなと思ひまして、お聞きしたいと思ひます。

知事

そうですね。本当に魅力的な都道府県でございますけれども、やはり他の県と差別化できるというところは私は、本県の精神文化であろうというふうに考えております。本当に、

出羽三山や、山寺、慈恩寺といった所が有名でございますけれども、実は、出羽百観音、三十三観音が 3 か所ある。それを巡るというようなことは、本当にしっかりと整備していくことで、私は将来の山形県の強みになるというふうに思っているところでございます。

私も実は何か所か訪れてみたのですけれども、実はかなり、何て言うんでしょうか、廃れていると言いますか、そこに行きましてもですね、はんこを押していただける方がいらっしやる所もあるのですけれども、「もうちょっと離れた所ではんこをいただいでください」と、その離れた所のお店に行きましたらそこが留守だったりとかですね、そういう所もありましてね。これはやはりもうちょっとしっかりと、いろいろな方々のお話もお聞きしながら、一緒になってね、しっかりとたくさんの方が巡礼のように回っていただけるような、体制というのでしょうか、受け入れ状況というようなものを、皆さんと一緒になってしっかりと整備していくべきではないかなというふうに実感したところでございますので、そういったところをどうしていけるのか、私はこれ以上廃れないようにしてですね、しっかりとたくさんの方々に回っていただけるようにしたい。山形県が日本の聖地であるというような、フランスのナントみたいな所がございますけれども、やはり、パワースポットたくさんございますし、日本に来たらあそこに行ってみたいねと、山形県が思われるような、そこを巡ってみたいとかですね、そういった所に将来なれるように、私は皆さんと一緒になって取り組んでいきたいというふうに思っております。具体的な細かいところまではちょっとわかりませんが、しっかりと、巡っていただいた時にそこできちんと対応できるようにするにはどうしたらいいか、そういったことを、そういった世界の人に、皆さんと一緒になって考えて、サポートできる場所をサポートしていければというふうに思っております。